



リサイクルでつなくサステナブルな未来

協 ニュース

90
MAY 2022

海洋プラスチック問題に向けて

今できること

Index

- 1 PICK UP 海洋プラスチック問題に向けて今できること
- 4 シリーズ プラスチック資源循環促進法を考える
- 5 インタビュー SDGsアクション
- 6 明日、誰かに話したくなる pnnのプラのなぜ？なに？
- 7 容リSTUDIES 環境省 環境再生・資源循環局長 室石泰弘氏
- 9 容リSTATION 協会の主な取り組み内容をご紹介します
- 11 ecoワードパズル



PICK UP



海洋プラスチック問題に

便利で生活に欠かせないプラスチックは、一方で海洋生物の生態系ひい
2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで

対馬海岸の海洋ごみから生まれた国内初の油性ボールペン



株式会社パイロットコーポレーション

「海の現状を伝えるきっかけになれば」 海洋プラスチックごみ由来の再生樹脂を初めて文具に活用

「スーパーグリップG オーシャンプラスチック」は、海洋プラスチックごみからリサイクルした再生樹脂を、国内で初めて筆記具に使用したボールペンです。開発したのは文房具メーカーの(株)パイロットコーポレーション。従来より社内の使用済み筆記具リサイクルのために、リサイクル事業を行うテラサイクルジャパン社と協業しており、そのつながりで同社が提供する再生樹脂に出会ったことがきっかけです。

「長崎の対馬海岸には海流の関係で国内外から大量の海洋ごみが漂着し、ボランティアの方が手作業で回収しています。その現状を何とかできないかと、開発に着手しました」(伴野晃氏)

ひとつの課題は、強度などの品質を確保するための樹脂の配合。海洋プラスチックと再生ポリプロピレン材を混ぜ合わせ、試行錯誤を経て従来品と同じ品質を確保しました。また、生産ロットにより色のばらつきが発生することも販売上の大きな問題でしたが、製品の成り立ちを社内ですべてに伝え、理解を促しました。

少しでも早く解決をと各部署が一体となり、商品化は3か月という異例のスピードで実現。しかも、価格は従来品と同じ110円(税込)に抑えています。そして2020年12月、発売にこぎつくと大手企業からノベルティとしての注文

対馬海岸に打ち寄せられたプラスチックごみ(画像提供/パイロットコーポレーション)。



も相次ぎ、1年で100万本のヒットに。エコマーク認定品の基準も満たし、2021年7月にはイタリアで開催された「G20環境大臣会合2021」で、日本の取り組みとして各国代表に紹介されました。

「正直、再生樹脂の利用にはコストはかかりますが、工程などを徹底的に見直し効率化に挑みました。ここまでのヒットは想定しておらず、環境意識の高まりを実感しましたね。商品を通して海の現状を伝えられたらうれしいです。また、このヒットは次の開発にもつながり、新たにバイオマスプラスチックを使用した商品も発売しました。今後は環境に配慮した包装にも力を入れていきたいです」

まさに“パイロット”となった先駆的なボールペン。その1本1本が、多くの人々の海洋環境への意識向上を促すことにつながりそうです。



環境省「プラスチック・スマート」キャンペーンにも登録。



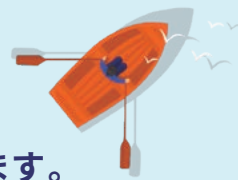
再生樹脂はペンを握る「先胴(さきどう)」に使用。生産ロットにより色が違い、素材の小さな黒点が残ることも、リサイクル素材を活用している証です。

濃色のペレットが対馬で回収した海洋ごみ由来のペレット。この色はポリバケツなどさまざまな漂着ごみの色に由来。このペレットに再生ポリプロピレン材を90%混ぜ合わせることで、安定したペレット原料を得られたそう。



株式会社パイロットコーポレーション 商品企画部筆記具企画課課長代理 伴野晃氏。社名の「パイロット」には、業界の水先案内人でありたいという思いが込められています。オーシャンプラスチックの活用は、パイロットとして必然の取り組みだったと言えます。

向けて今できること



では人の健康をおびやかす重大な国際的な課題となっています。

削減する「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の達成に向けて、取り組みが加速しています。

使用済みカップを可燃ごみから循環資源に変える



東罐興業株式会社

脱プラ、循環型社会を目指す世界の要請に応え、 カップメーカーが開発した消費者参加型のカップ洗浄機

飲食店の使い捨てカップは食品残さが付着したまま廃棄・焼却されるため、新たな容器として生まれ変わるマテリアルリサイクルが行われていないのが実情です。2019年、東京都と伊藤忠紙パルプ(株)が大手飲食チェーンの協力のもと、カップの店舗リサイクル実証実験を行った結果、選別や回収のコストといった課題が抽出されました。

この実証実験を耳にした東罐興業(株)では、課題解決のためには、時間が経つほど取れにくくなる汚れや匂いを“すぐに洗う”必要があるとの思いを強くします。そこで開発されたのが、消費者参加型のカップ洗浄機「Re-CUP WASHER」です。

「日本のペットボトルや牛乳パック回収率が高いのは、きちんと洗って分別するという文化が根付いているから。それならば外で飲食した際にも、同様にリサイクル意識を高めてもらうことができるはず。店舗に設置できて、手を汚さず簡単に楽しく自分で洗浄できる装置があれば循環型社会への移行に弾みがつくと考えました」(吉村弘一氏)

開発した東罐興業株式会社ではCLOMA(クリーン・オー

幅400×奥行500×高さ880mmというサイズや、手を汚さずに洗えるといった仕様は、大手コーヒーチェーンなどにヒアリングを重ねて開発。コーヒーなどの軽度な汚れなら常温仕様、クリームや調味料などの重度な汚れなら温水仕様と、店舗にあったタイプが選べます。



使用済みカップを伏せてグッと洗浄機に押し付けると、勢いよく水流が回転しながら瞬時にカップの汚れを洗浄。このたったワンアクションが、これまで産業廃棄物でしかなかった使用済みカップを循環資源に生まれ変わらせます。



東罐興業株式会社 常務執行役員の吉村弘一氏(左)と営業三部長の阪井雅之氏(右)。



使用する水は1回わずか50cc。女性でも持てる内部の10ℓタンクで、約200杯分を洗うことができます。



「Re-CUP WASHER」誕生のきっかけとなったのは、東罐興業を擁する東洋製罐グループの創業100周年を機にスタートした「OPEN UP! PROJECT」。時代によって変化する課題に向き合い、イノベーションで未来を「切り拓く」プロジェクトです。世界初のレトルトパウチの発明など容器のイノベーションに常に挑戦し続けてきた技術を活かし、一人ひとりが抱える課題を解決すべく、さまざまなアイデアを社員から広く募っています。

シャン・マテリアル・アライアンス)に加入する2019年より前から、「Re-CUP WASHER」の構想があったといいます。

「海洋プラ問題の影響でプラカップから紙コップに移行するお客さまも増えましたが、それがゴールではない。プラも紙も使い捨てではなく、水平リサイクルができるようになるのがゴールのはず。海外ではリユースカップが増えつつありますが、我々のコア事業であるワンウェイカップでも店舗における処理コストなどの問題を解消して環境負荷低減を実現したい。そのために、できるだけ多くの方にこの装置を知っていただければと思っています」(阪井雅之氏)

この「Re-CUP WASHER」が多くの店舗で導入されれば、紙コップもプラカップも循環資源となり、やがて“使い捨てカップ”という言葉がなくなる日も訪れるかもしれません。

富士市産業交流部

富士山の雪解け水と田子の浦港が生んだ“紙のまち” その製紙技術とノウハウを活かし、CNF関連事業を推進

脱プラの流れが加速するなか、低環境負荷でさまざまな特性を持つ次世代の新素材「セルロースナノファイバー（CNF）」が国や多くの企業から注目されています。なかでもCNF関連の地域産業活性化を積極的に推進しているのが富士市です。

「富士市は“紙のまち”ともいわれるほど製紙業が盛んな地域です。木材を原料とするCNFの作り方は紙の製造工程と途中まで同じなので、製紙の技術やノウハウが非常に役に立ちます。さらに紙の原料であるパルプを利用すれば、木材から作るよりもずっと効率的にCNFを作ることができます。ペーパーレス化が進む今だからこそ、製紙の知見が豊富な富士市がCNF関連事業を推進することに意味があるのです」（松葉剛哲氏）

そこで、同市は2019年に「富士市CNF関連産業推進構想」を策定し、CNF研究開発の加速化と関連産業創出のための連携・ネットワークを構築しようと「富士市CNFプラットフォーム」を設立。その一環としてCNFを利活用した製品を市が認定する「富士市CNFブランド」認定事業を始めました。企業はこの認定をビジネスツールとしてブランド力を高め、市はCNF産業に取り組みやすい自治体だと周知し新たな産業の創出や集積を図るのが狙い。第1期は

5製品を認定、今後も認定品を増やしてしていく予定。

「富士市は富士山と海を有する唯一のまち。富士市で製紙業が栄えたのも富士山の豊かな雪解け水があり、高速道路や原料・製品の輸出入ができる港など、物流の利便性があったおかげです。だからこそ新しい素材による経済の循環と、脱プラやリサイクルなどによる海洋環境保護の両立にも繋がるCNFをもっと広めていきたい。再生可能資源であるCNFへの代替が進めば、化石資源の使用量削減にも大きく貢献できるはずです」（平野貴章氏）

まだ研究開発段階の素材ですが、CNFの特性を利用した生分解性プラスチックなどにより、海に流出しても数年後には分解されるような素材が生まれれば、海洋環境への負荷低減も期待できそうです。



リモート取材にお応えいただいた富士市産業交流部産業政策課 CNF・産業戦略担当の松葉剛哲氏（左）と平野貴章氏（右）。



CNFとは木材などの植物繊維をナノオーダー（1mmの百万分の1）にまで解きほぐした超微細植物繊維のこと。「軽くて強い」、「植物由来で環境負荷が少ない」などの優れた特性を持つ新素材です。CNFをほかの素材に混ぜたり、形作ったりすることで、建材から自動車の部品、化粧品、食品までさまざまな用途に使用することができ、多種多様な業界での応用が期待されています。



富士市は製紙技術を軸に、“富士山のように、高みを目指す「ものづくり」のまち”などの計画を掲げ、国が持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を選定する「SDGs未来都市」に。



第2期の認定では、CNFを食品添加物として使用することで日持ちを長くした商品も。富士市の仲介により、日本製紙の技術が老舗・御菓子庵「田子の月」のどらやきに採用。市への問い合わせも多く寄せられたそう。



CNFまたはCNF関連技術を活用して生産・製造・加工した製品などについて、「富士市CNFブランド」として認定する制度を2021年度に創設。認定品は市がPRを支援し、このブランドマークの使用も可能に。



タリスカー

環境保護団体と協業し、売上の一部を寄付 世界中の1億m²の海洋生態系の保全・保護を目指す

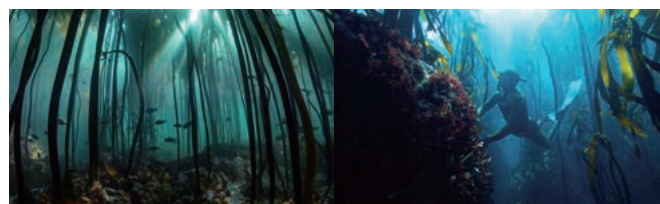
MHD モエ ヘネシー ディアジオが展開するウイスキー「タリスカー」が、パッケージの全面刷新に合わせ、総重量の99.8%をリサイクル可能にしました。そもそもリサイクル率の高いガラス瓶ですが、キャップ内のわずかなプラスチックまで削減し、1本あたりのプラスチック素材を0.77gに。現在60%のリサイクル素材使用量も、2030年までに100%にするとしています。さらに2020年10月からは、環境保護団体「パーレイ・フォー・ジ・オーシャンズ」に売上の一部を寄付し、海の保全活動をサポートしています。

「スコットランド・スカイ島の厳しい海と自然に育まれたウイスキーとして、蒸留所の伝統と環境を守ってきた歴史があるため、彼らの活動には強く共感し、グローバルでパートナーシップを結びました。2023年までに、世界中の1億m²の海洋生態系を保全・保護することを目指しています」(ディアジオ マーケティング部 シングルモルトブランドマネージャー矢澤剛氏)



「ミストアイランド(霧の島)」と称されるスカイ島は、風光明媚な自然が残る場所。その海沿いに立つ蒸留所で、1830年の創立からほぼ同じ製法で作られ続けています。その環境を変えてはいけないという信念が、海の保全・保護活動につながっています。

海を思わせる潮の香りと黒胡椒のようなスパイスさを持つシングルモルトウイスキーの価値は、冒険小説の名作『宝島』の作者も「酒の王様」と評したほど。「その無二の個性を醸す昔ながらの製法は、厳しい海に面した蒸留所の環境も含めて、受け継いでいかなければならない」と矢澤氏。



スポーツ・アパレルブランドとの協業でも知られる環境保護団体「パーレイ・フォー・ジ・オーシャンズ」は、海洋環境の保護・保全活動に加え、社会認識を高める活動を進めています。2012年の設立以来、各業界のクリエイターや思想家とも積極的に協業しています。

こういった取り組みは、ディアジオ社が2020年に発表した10年計画に基づき進められています。

「2030年までにすべてのパッケージをリサイクル素材で製造、100%リサイクル可能にし、さらにサプライチェーン全体で廃棄物をゼロにするという非常に高い目標を掲げています。現在までにタリスカー蒸留所では焼却不可能な廃棄物はゼロを達成、さらに原料の大麦の残りかすを再利用する研究や、水の消費量を20%削減する計画も進めています」

高い目標の原点には、厳しい自然環境でウイスキーを造り続けてきた蒸留所としての、海と雄大な自然への想いがあります。

「タリスカーほど、生まれ故郷の自然を体現するウイスキーはないといわれています。自然にいただいたものが多いからこそ、それを還元するのは当然のことであり、『MADE BY THE SEA』というブランドのメッセージが、海的环境を考えるきっかけになることを願っています」

海に育まれたからこそ、海的环境を守りたい。そのメッセージは、説得力のある発信になっています。

新パッケージでも、海と自然への想いを「MADE BY THE SEA」というメッセージを込めて表現しています。現在はフックシップの「タリスカー 10年」と「タリスカー ストーム」の2商品が新パッケージに切り替わっており、ほかの商品も順次切り替え予定です。



画像提供 / タリスカー

シリーズ

プラスチック資源循環促進法を考える



2022年4月、いよいよ施行になった「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」(以下プラ新法)に関するポイントを連載で解説します。

プラ新法のポイントは、なんといっても「捨てることを前提としない経済活動をしよう」と提唱しているところ。つまり3R+Renewableの促進です。構造面では減量化、包装の簡素化、長寿命化など、材料面ではプラ以外への代替などの対応を促す「環境配慮設計指針」が明示されたプラ新法のキャッチフレーズは『えらんで、減らして、リサイクル』。設計・製造のつくる段階だけでなく、販売・提供段階、排出・回収・リサクル段階まで消費者や行政も一体となり、プラ製品のライフサイクルそれぞれのフェーズで変化を促す制度となっています。優れた設計を採用する製品には国が認定する制度も新設され、その推進が図られています。

今回のポイント

- ✓ プラ製品の設計について「環境配慮設計指針」を明示
- ✓ プラ製品のライフサイクル全般で資源循環等を促進する
- ✓ キャッチフレーズは『えらんで、減らして、リサイクル』

次回

販売・提供のポイントとなる「ワンウェイ(使い捨て)プラ製品」



キーパーソンに聞く海洋プラスチック問題の課題と日本の役割

プラスチックごみの99%が行方不明 その解明に挑む深海大国・日本

プラスチックは化学的に非常に安定した構造で利便性が高い反面、その構造ゆえに自然に分解されないため蓄積される一方です。しかも毎年、スカイツリー約280個分、約1,000万トンものプラスチックごみが海に流出しています。その大半が排出されるアジア諸国から黒潮に運ばれてくるため、日本近海は海洋プラスチックのホットスポットといわれています。しかし、一説によれば海に浮いているのはプラスチックごみ全体のわずか

1%で、残りの99%は深海の底に沈んでいると言われます。その早急な解明が世界の課題ですが、日本のようにすぐ近くに9,000m級の深海がある環境は世界的に見てもかなり特殊。そんな日本だからこそできることがあるはず。なかでも深海と外洋の調査は、JAMSTECが得意とするところ。

実際に房総半島沖、深さ約6,000mの深海底を見てみると、一番目立つのがレジ袋です。軽くて薄いレジ袋は風に飛ばされて海に流出しやすい上、紫外線や太陽の熱によってすぐに劣化して回収不可能なマイクロプラスチック(直径5mm未満の粒子)になってしまう。国内のプラスチックごみ

“日本はプラ容器の使用量が多すぎます。一人当たり年間10kg排出量を減らすべきです。紙やバイオプラへの代替、水平リサイクルの徹底を実現しましょう”

中嶋 亮太氏

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)
海洋プラスチック動態研究グループ グループリーダー



「しんかい6500」に乗り込み、実際に中嶋氏が海底で収録した映像。回収された食品包装には昭和59(1984)年製造と記されていた。

全体に占めるレジ袋の重量はわずか数%にすぎませんが、枚数で示すととんでもない量になります。重量は重要ではないのです。国内では年間300億枚も使われているともいわれていますから、レジ袋の有料化には大きな意味があります。日本では4月にはプラスチック資源循環促進法が施行されましたが、今後ますます世界各国で使い捨てプラスチックの規制は強まり、国連環境総会でも法的拘束力のあるプラスチック削減の国際ルール作りが始まります。パリ協定を批准している日本でも、2050年以降は石油由来のプラスチックを燃やすことができなくなる。でも、プラスチックは必要です。だからこそ、プラスチックの水平リサイクル、代替素材への交換、そして再利用できる容器包装デザインに進化させていくことが望ましいですね。



「行動の10年」(Decade of Action)は、貧困やジェンダーから気候変動、不平等、資金不足の解消にいたるまで、世界の最重要課題すべてについて、持続可能な解決策を加速度的に講じることを求めています。

なかじま・りょうた ●国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の海洋プラスチック動態研究グループ グループリーダー。工学博士。もともとサンゴ礁の研究に取り組んでいたが、サンゴがプラスチックによって大きなダメージを受けていることから海洋プラスチックの研究を始めた。著書に「海洋プラスチック汚染」(岩波科学ライブラリー)。

明日、誰かに話したくなる



本のキ

プラのなぜ?なに?

プラスチックの基本と、あっと驚く雑学ネタをご紹介します。
プラスチックやリサイクルに関する知識や興味を深めて
地球にやさしい“循環する暮らし”を。



家庭から出た「プラ」のゆくえ

みなさんの
役割

分ける



集める



市区町村
の役割



自治体が契約する中間処理施設。異物を取り除き、加工されます

リサイクルする

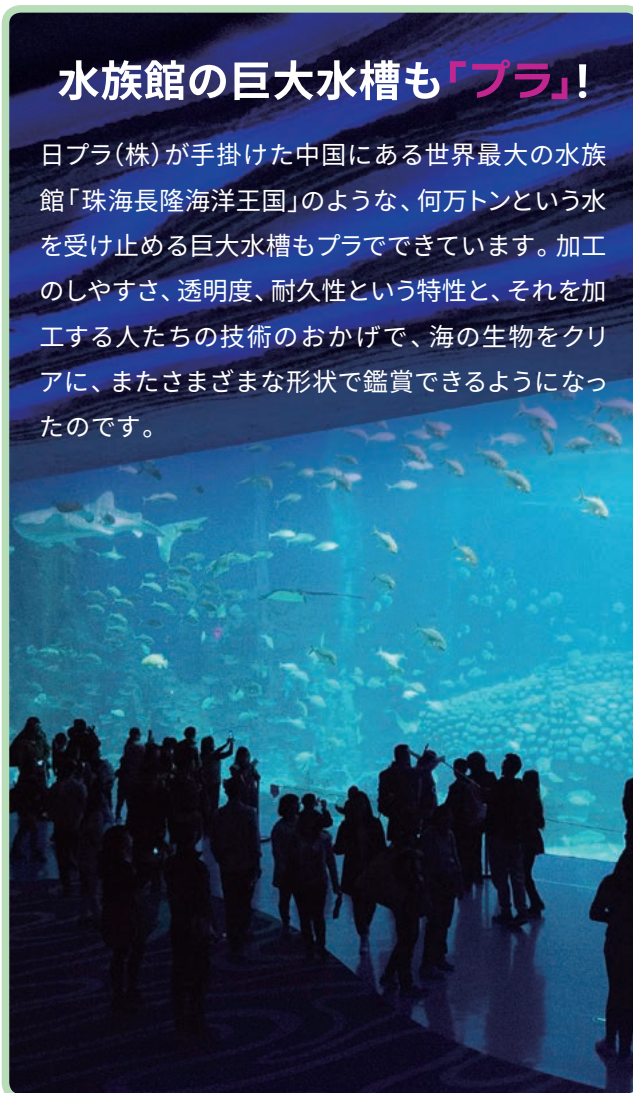


新たな用途へ

家庭から出た「プラ」がどこに行くかみなさんにはご存じですか？まずは中間処理施設に集められ、機械と人のチェックで、異物を取り除きます。ここに汚れたプラが入っているとリサイクルできなくなるので、軽く洗ってから廃棄しましょう。その後、リサイクル工場へと引き渡され、新たな用途に用いられます。

水族館の巨大水槽も「プラ」!

日プラ(株)が手掛けた中国にある世界最大の水族館「珠海長隆海洋王国」のような、何万トンという水を受け止める巨大水槽もプラでできています。加工のしやすさ、透明度、耐久性という特性と、それを加工する人たちの技術のおかげで、海の生物をクリアに、またさまざまな形状で鑑賞できるようになったのです。



COLUMN

それゆけ! 元プラ調査隊

プラスチックから生まれ変わった
モノを我々は絶対に見逃さない!



VOL.1

点字ブロック

目の不自由な方の安全な歩行のために設置される点字ブロックには、再生プラが使用されているものも。視覚障害者にも、地球にも優しいのです!

Q

なぜプラスチックの新しい法律ができたのか教えてください。

A

プラスチックは、安価で、丈夫で、さまざまな形に加工することができるなど、その有用性から生活のなかで幅広く利用されていますが、廃棄段階ではその丈夫さ、容積の大きさ、焼却時の発熱量などの特徴から長年にわたって廃棄物処理の中心的な課題でした。また、近年、プラスチックによる海洋汚染が世界的な課題となり、中国をはじめとした廃プラスチックの輸入規制に

より国内でプラスチックを循環させる必要性が高まりました。さらに、地球温暖化対策の観点からもプラスチックについて対策を行うことが不可欠となっています。

こうしたことを背景として、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」(以下「プラ新法」)が2021年6月に成立し、2022年4月に施行されました。

Q

どのような内容の法律なのでしょう？

A

プラ新法は、製品分野ごとに定められてきた従来の個別リサイクル法と異なり、プラスチックという「素材」に着目した法律です。製品の設計から廃棄物の処理に至るまでのプラスチックのライフサイクル全般で、事業者・消費者・国・地方公共団体などすべての主体による3R+Renewableの取り組みを促進するものです。

3R+Renewableとは、回避可能なプラスチックの使用はReduce(リデュース)・Reuse(リユース)により減らし、必要不可欠なプラスチックについては、持続可能性が高まることを前提に再生素材や再生可能な資源(紙、バイオマスプ

ラスチックなど)に切り替えるRenewable(リニューアブル)を進め、徹底したRecycle(リサイクル)やそれが難しい場合には熱回収を実施することをいいます。具体的には、

- 1 「設計・製造」段階で、環境配慮設計に関する指針を策定し、特に優れた製品設計を国が認定する
- 2 「販売・提供」段階で、使い捨てプラスチックを提供する小売・サービス事業者等にリデュースの取組を求める
- 3 「排出・回収・リサイクル」段階で、家庭や事業所から排出されるプラスチック資源を回収・リサイクルしていくことを定めています。

“環境に配慮して設計された製品を「えらんで」、使い捨てプラスチックを「減らして」、店頭回収や市区町村の回収に分別排出することで「リサイクル」への協力をお願いします。”

室石 泰弘氏

環境省 環境再生・資源循環局長



Q

プラ新法によってプラスチックごみの処理はどのように変わりますか？

A

これまで市区町村は、容器包装リサイクル法に基づいてプラスチック製容器包装の分別収集を行ってきましたが、プラ新法の施行によって、容器包装のみならずプラスチック製品を回収対象にする市区町村が増えていきます。消費者から見ると、いままでプラスチックごみを排出するときに、同じ素材なのに容器包装とそれ以外のプラスチック製品の分別区分が異なることに感じていた矛盾が解消されることになれば、より分別に協力しやすい社会になると思います。

市区町村の回収に加えて、製造事業者や販売事業者の自主回収ルートもさらに整備されることを期待しています。プラスチック産業廃棄物についても、プラ新法により排出事業者に排出抑制とリサイクルなどを求めることで、よりリサイクルされる範囲が広がっていくと考えています。プラ新法が施行されることで、プラスチックの処理の流れが変わっていくことを期待しています。

Q

プラ新法の施行に当たり、事業者や消費者に期待することをお聞かせください。

A

事業者の皆さまには、環境に配慮した製品設計、使い捨てプラスチックの削減、製造・販売した製品の自主回収、排出事業者としてのプラスチック産業廃棄物の排出抑制・リサイクルをお願いしています。消費者の皆さまには、「プラスチックは、えらんで、減らして、リサイクル」と題して、環境に配慮して設計された製品を「えらんで」、使い捨てプラスチックを「減らして」、店頭回収や

市区町村の回収に分別排出することで「リサイクル」への協力をお願いしています。

プラスチックの資源循環は1つの主体の取り組みだけでは完結せず、事業者・消費者・国・地方公共団体などすべての主体の参画が必要です。積極的な取り組みを期待しています。

Q

最後に、プラスチックに対する国際的な動きについても教えてください。

A

2月28日から3月2日にかけて、ケニア・ナイロビで開催された「第5回国連環境総会再開セッション」(UNEA5.2)において、日本が決議案を提出して議論を主導するなど大きく貢献した、「プラスチック汚染を終わらせる：法的拘束力のある国際文書に向けて」と題する決議が採択されました。これにより、本年秋から政府間交渉委員会(INC)における交渉が開始されることとなりました。

日本としても、この決議に基づき2024年末までに合意できるよう、法的拘束力のある文書(条約)の作成に向けた国際交渉に積極的に参加していくこととなります。引き続き、国内外でしっかりとプラスチック汚染問題に取り組んでいきます。

プラ新法の詳細は、環境省ホームページより
ご確認いただけます



<https://plastic-circulation.env.go.jp/>



St.1 再商品化見通し等報告会を開催

令和4年3月2日「令和3年度再商品化見通し等報告会」を、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京都港区のAP虎ノ門とオンラインを併用し、開催しました。

本報告会は各事業委員（ガラスびん、PETボトル、紙容器、プラスチック容器）と総務企画委員会の委員を対象にした合同委員会であり、令和3年度再商品化事業の総括説明と各素材の再商品化製品販売状況の見通し、および収支の見通しについて説明があり、引き続き令和4年度再商品化事業者の落札結果（PETボトルは上期分）、再商品化事業に甚大な悪影響を及ぼすリチウムイオン電池発煙・発火トラブル状況などについて報告し、質疑応答がなされました。令和3年度事業報告書については令和4年6月中旬に当協会ホームページに掲載予定です。

St.2 再商品化事業者説明会を開催

令和4年3月10日・11日「令和4年度再商品化事業者説明会」を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当協会大会議室とオンラインを併用し、開催しました。

本説明会では、令和4年度再商品化登録審査に合格し落札した再商品化事業者に対し、円滑な再商品化を図るために各事業部より再商品化に関する手続き・書類作成・報告、オンライン操作など、さまざまな説明を実施しました。また、令和3年度紙製容器包装再商品化事業者における重大事故多発に伴い、紙製容器包装事業者のみならず全事業者に対し、改めて安全衛生の徹底を促しました。その他、事業場で専任が必要な労働安全衛生法上の管理者等について、改めて所轄の労働基準監督署などに問い合わせるよう促しました。

St.3 令和4年度落札結果を ホームページに掲載

令和4年4月8日「令和4年度落札結果」を、当協会ホームページに掲載しました。

落札単価(加重平均) (消費税抜き)

単位：円/トン

	令和4年度	令和3年度	増減
ガラスびん 合計	10,836	9,821	1,015
無色	6,980	6,449	531
茶色	7,859	7,127	732
その他の色	15,844	14,485	1,359
PETボトル	上期 -64,196	上期 -7,923	-56,273
紙製容器包装	-2,805	16	-2,821
プラスチック製容器包装 合計 (白色トレイ含む)	55,501	56,415	-914
◆ プラスチック 合計 (白色トレイ除く)	55,496	56,411	-915
● 材料リサイクル	60,328	60,816	-488
● ケミカルリサイクル 合計	49,236	51,312	-2,076
高炉還元剤化	41,257	40,992	265
コークス炉化学原料化	49,448	53,427	-3,979
合成ガス化	53,155	48,992	4,163
◆ 白色トレイ	65,067	63,701	1,366

※ PETボトル・紙製容器包装の落札価格の「-」表示は、有償（再商品化事業者から容リ協会への支払）を意味します。上表では逆有償も含めた加重平均単価を表示しています。

※ PETボトルについては、令和4年度上期の落札結果と令和3年度上期分との増減比較を表示しています。

※ 白色トレイ：食品用白色発泡性スチロールトレイを意味します。

※ 各表の合計値は四捨五入しているため合わない場合があります。

各素材の落札単価状況は、ガラスびんでは3色とも上昇し、合計では10,836円/トンと前年度より1,015円高くなりました。PETボトル(上期分)ではマイナス64,196円/トンで、前年上期より56,273円有償化が進みました。紙製容器包装ではマイナス2,805円/トンで、前年度より2,821円有償化が進みました。プラスチック製容器包装では55,501円/トンで、前年度より914円減少しました。

なお、市町村指定保管施設からの引取予定、入札倍率(札数ベース)、地域別・品目別の個別結果などの各種情報は、協会ホームページよりご確認ください。



St.4

こどもエコクラブ全国フェス2022 【オンライン】への出展

令和4年3月19日から開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル2022【オンライン】」(主催:公益財団法人日本環境協会)にブースを出展しました。例年会場で開催されているイベントですが、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催となりました。当協会ブースでは容器包装リサイクルと環境保全とのつながりや、正しい分別を学べる内容でコンテンツを企画しました。また、リチウムイオン電池が原因とみられる発煙・発火トラブルに関する啓発動画を活用し、分別の大切さを改めて呼びかけました。3月20日に開催されたZoomオンライン交流会にも参加、全国のこどもエコクラブの方々と交流し容器包装リサイクルの大切さをお伝えしました。



3月20日実施のオンライン交流会には、全国から20クラブ、8つの企業・団体が参加しました。

St.5

「容リ協ニュース」がリニューアル!

平成9年に「再商品化ニュース」が創刊され、平成16年に「日本容器包装リサイクル協会ニュース」、平成27年に現在の「容リ協ニュース」となった当協会会報。このたび90号を迎えるにあたり、より皆様にご愛読いただけるようにリニューアルしました。テーマに沿った容器包装リサイクルの取り組みやSDGsアクションのご紹介など、取材を通じて“いま”の話題と現場の声をお届けしてまいります。



容リ協日誌 (令和4年3月~4月)

● 容リ協行事

3月2日	「令和3年度再商品化見通し等報告会」開催(オンライン併用)
3月10日・11日	「令和4年度再商品化事業者説明会」開催(オンライン併用) 10日:紙製容器包装、PETボトル 11日:ガラスびん、プラスチック製容器包装
3月19~4月9日	「こどもエコクラブ 全国フェス2022【オンライン】」に参加



令和3年度 市町村からの引取実績 再商品化製品販売実績

1. 引取実績

—	4~3月累計		
	引取量(トン)	前年同期比(%)	
ガラスびん	335,045	100.0	
内訳	無色	96,785	98.7
	茶色	98,809	99.4
	その他色	139,451	101.3
PETボトル	236,512	104.0	
紙製容器包装	20,131	99.3	
プラスチック製容器包装	686,467	100.7	
内訳	白色トレイ	351	96.5
	プラスチック	686,115	100.7

2. 再商品化製品販売実績

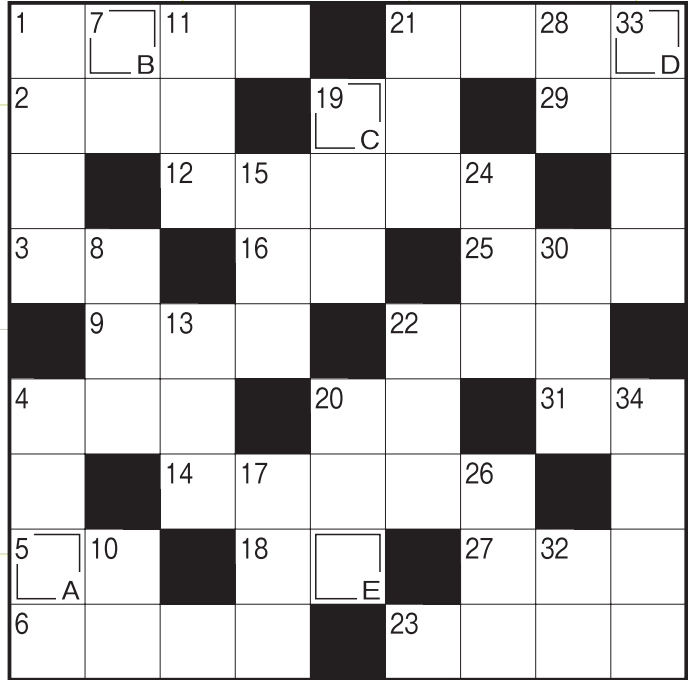
—	4~3月累計		
	販売量(トン)	前年同期比(%)	
ガラスびん	323,026	103.0	
内訳	無色	90,552	98.3
	茶色	93,501	103.5
	その他色	138,974	105.8
PETボトル	196,601	109.8	
紙製容器包装	19,654	99.3	
プラスチック製容器包装	461,574	102.5	
内訳	白色トレイ	334	98.0
	プラスチック	461,240	102.5



eco

ワードパズル

パズル制作/ニコリ



問題

ヨコとタテのカギを読んでマス目を埋めよう。
A-Eの文字を並べてできるECOワードはなに？

ルール◎文字はすべてカタカナで、1マスに1文字を入れてください。小さい文字(ヤ、ヨ、ユ、ツなど)は大文字として扱い、長音「ー」は1マスに入れ、濁点・半濁点は取り出さず清音と区別します。

タテのカギ

- 海のこと。SDGsの14番は「海の豊かさを守ろう」。
○○○○資源を保全するため、各国が工夫を凝らしています
- この上に油絵を描きます
- 大きな石
- 「あなたがやったんでしょ」と○○○○を指されて絶句した
- 同盟罷業。時限○○
- 初物や出始めのもの。カツオの○○○○を食べて季節を感じる
- 難関を○○○○し、晴れて社員になった
- 自転車の座る部分
- 旅行のこと。○○○○ガイド
- 石油。SDGsの7番は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」。
石油以外のクリーンなエネルギーも使っていきましょう
- 無一文になることを俗に「○○○○になる」と言います
- SDGsについて考えるのに特別な○○○○は不要です
- 汚れがつかないよう○○○○をつけてものを大切に使っています
- よく似ています。○○○○品
- 時と場所。○○○○を超える
- フィッシング。豊かな海の恩恵を受けることができますね
- 小さな○○○○が争いにつながることもあります。SDGsの10番は
「人や国の不平等をなくそう」、世界が協力する世の中を目指しましょう
- から出たまこと
- 経過や道のり。国連でのSDGs採択までの○○○○も長いものでした
- われわれの星。豊かな○○○○を守っていきましょう

ヨコのカギ

- SDGsは、持続可能な○○○○目標のこと
- 魚偏に弱と書く魚。魚たちが今後も豊かな海で暮らせるよう
プラスチックごみの海への投棄をやめましょう
- 水がぐるぐる
- 部屋が乾燥しているので○○○○器を使った
- 停留所から乗ります
- プラスチックごみを減らすため、紙製や金属製のものも使われています
- 使用済みのペット○○○○を回収し新たなプラスチック製品にする取り組み
も行われています
- SDGsの12番は「つくる責任 つかう責任」。
資源の○○○○○に努めましょう
- 包むこと。資源を無駄に使わない簡易○○○○○の商品も増えています
- アメリカの通貨単位
- 魚の骨や頭などの部分。ゴミを減らすためにもおいしくいただきたいですね
- 小高いところ
- 父母の姉や妹
- 小売り店。ゴミを減らすために○○○○袋を有料にしているところも
- 歌を詠むひと
- 紙は包み紙のこと。
環境に配慮し再生紙を使う○○○○紙もあります
- 生きたままの魚が入っています
- 飛行機で運びます
- 整然と説明をする
- うち。貨幣○○

パズルの答えと
ecoワードの
解説はコチラ



リサイクルでつなぐサステナブルな未来
容協ニュース No.90 2022年5月発行

編集・発行：公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政福祉琴平ビル 2階
(企画広報部) tel.03-5532-8610 fax. 03-5532-9698
URL : <https://www.jcpra.or.jp/>

●禁無断転載



この用紙は、FSC®認証材および管理原材料から作られています。